

長門市立通小学校でシイタケの植菌体験を実施

令和7年1月30日（木）、旧長門市で活動する林業研究グループ「長門さとやまの会」（会長：福永純久）は、長門市立通小学校の4～6年生（6人）を対象に、シイタケの植菌体験をしました。

これは、次代の担い手となる子どもたちに、森林の大切さやそれを支える林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために実施した体験学習です。

当日は、森林の役割やシイタケ栽培のお話を聞いた後、会員に教わりながら、クヌギの原木にドリルで穴を空けてシイタケの種駒を木槌で打ち込みました。児童たちは初めて使う道具に戸惑いながらも熱心に作業をしていました。

種駒を打ち込んだ原木は、運動場に隣接する倉庫まで軽トラックで運搬し、倉庫裏に伏せ込みしました。伏せ込みが終わった後、会員が児童たちに、「もうすぐ6年生は卒業ですが、伏せ込みした原木からシイタケを収穫してほしい。」と話をしていました。

体験終了後に児童から、「ドリルの音が怖かったけど、優しく教えてもらえたので作業できた。」とお礼の言葉がありました。



シイタケ栽培のお話



シイタケの駒打ち